

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

私を

格

知

池





『妖魔』
それは太古より
人の世を脅かし存在

妖気を操り
人知を超えた現象を
起こし害をなす

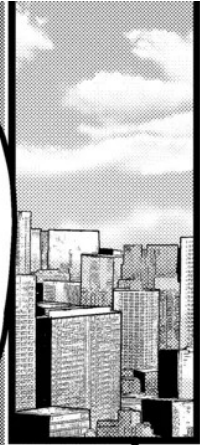
しかし妖魔に対抗し
人の世を守護する
人間たちが居る

『退魔師』

そして
代々退魔を
生業としてきた
由緒正しき家系

そこに
天才女退魔師がいた





はあ〜…
やっと見つけた

あんだねえ？
近ごろ退魔師を
襲ってる妖魔は…

榊 沙羅
(○6歳)

榊家の分家
沙羅の補助役
榊 和央
(○6歳)

まったく…こんな
ちっこい妖魔に手こずる
なんて…最近の退魔師は
たるんでんじゃないの？

この私が出るハメに
なったじゃない！

沙羅ちゃん気を付けて…
こいつに何人もの退魔師が
やられてる…しかも
魂が抜けたような状態に
なって原因は不明

気を付けるに
越したことは無いよ

はあ？

昔からあなたは
私の何を見てきたの？

天才の私が
こんなチビに
負けるとか
ありえない

こんなザコ妖魔
余裕だから



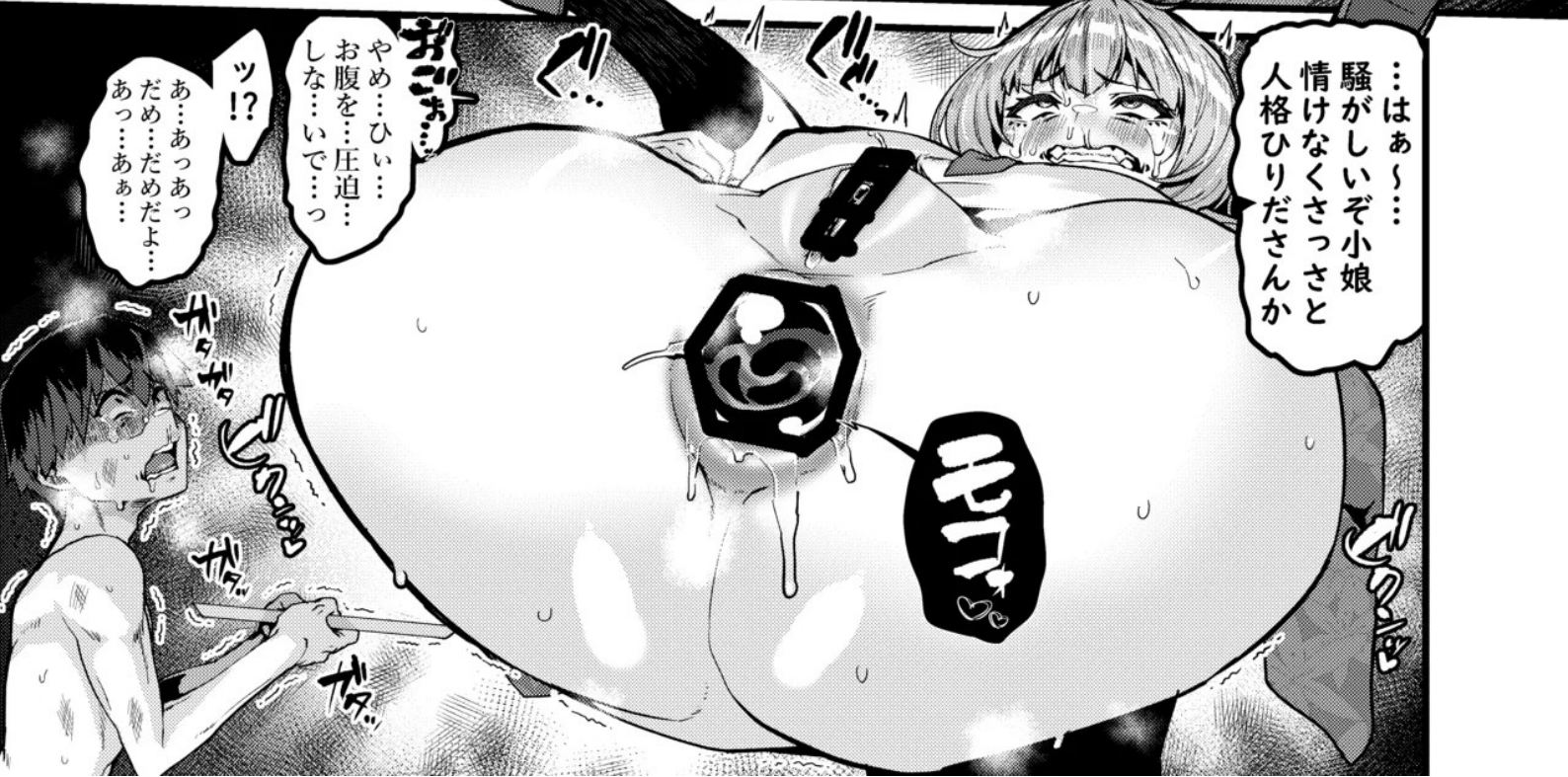


天才退魔師様が懇願
までして情けないの
さっきの勢いは
どうしたのかえ？

さて…小僧
しっかりその盆を
持っておれよ？
菊門から出た
小娘が地面に
散らばるぞ？

…ッ
…ッ
かつ和…央…
たす…助けて…
助け…てよ…っ

もう…限界…
限界なわお…



…はあ…
騒がしいぞ小娘
情けなくさっさと
人格ひりださんか

やめ…ひい…
お腹を…圧迫…
しな…いで…っ

ツ!?
あ…あつあつ
だめ…だめだよ…
あ…ああ…



ぷっ…下品な
音を出しよる…
情けない貴様に
良く合う音だ
あはは！

五百年を生きる大妖魔である
この『那鬼』様に舐めた真似を
するからこうなるのだ

この「カラ」の肉体は
大量の霊力を秘めて
おるな…

霊力は吸い上げて…
ふむ容姿も申し分ない
妾の愛玩用にでもするか

かかっ
本当に人格以外は
才が溢れてるな貴様!



さて…その
人格の方だが…

沙羅…ちゃん…っ
沙羅ちゃん…っ

ごめんなさい…
ごめんなさい…
僕が弱かったばっかりに
沙羅ちゃんが…こんな…





そう落ち込むな
貧弱な小僧よ

あれだけ大口を叩いた
哀れな小娘がこんな姿に
なったのは利用価値が
あったからだ

そして
貴様が無事なのは
なにの価値も無かった
から生かされた
良かったではないか!

…小娘はこんな姿に
なったというのに…
貴様は弱いせいだ
生かされてしまったの
う?

だが…この娘
貴様次第では…
助かる方法が
あるかもなあ?



ッ!?
それは…!

ああ…
勿論本当だ
貴様の情けなさに免じて
助けてやってもいい…

しかしだ…貴様には
それ相応の覚悟はして
貰うぞ…いいのか?

かっ…
覚悟って…



…ふむ
即決できないと
あればこの話は…

待って!
待ってください!!

やっやります!
やらせてください!!

沙羅ちゃんは僕の
すっ全てなんです!
助かるなら何でもします!

そうかそうか!
貴様の気持ちは
しかと受け取ったぞ♪

っ!?!
あっあの…
何を…っ



え……

あつあつ
あああツ!?

え……
あ……れ……
何が……?

??

……あ……
……私……が……?



あつはははっ!
やはり小娘が体の
主導権を取ったか!

魂の強さを
考えたら当然だな

どうだ?
そのひ弱な
身体は?

……これ……
和央の……身体?
えっえっ!?

ウソウソ……
こんな……



良かったのう
貴様はあのまま糞として
動けぬまま生きていく
ところだったのだぞ?

身体を提供するくらいしか
能がない小僧に感謝する
ことだな?



頭の中に和央の声が……
そんな私……和央の身体
取っちゃったの……?

沙羅ちゃんか僕の中に……?
……えっ身体が……動かない……!?



何を言っても
恰好がつかないぞ?

そうか悪いの、
しかしその股座にある
「それ」を何とかしないと

…はあ?
股って…



和央を馬鹿にするな!
こいつは私のためにな…!
くそっお前のせいで…っ



かかかっ!
小僧はこっちの方は
とんでもない
強者だったか!

いたっ痛い!
凄く腫れあがって
痛いわっ何なの!

こんなデカイマラ
見たことがないぞ!



はっ…はああッ!?
なに…これあ!?
和央の…和央のッ!

何が…

わっあっあっ
みっ見ないで!
沙羅ちゃん!!



こうなるのは当然
貴様は股を小僧に
晒したのだぞ?

かかっ治まらぬか!
さぞ興奮したのだな
なっなんで…っ

ッ!?!
あ…あ…ッ



ん〜それを治めたいのか？
それならば…

…えっちよつと
あんたそれ…！

ツ!?

自分自身の身体を
使って鎮めればよからう♡

そんなこと…いたつ
なに…凄い脈打ってる…
なんなのよいったたい！

見ないで…
沙羅ちゃん…っ

それにだ…

この口に突っ込み
舌の上に擦りつけたら
さぞ気持ちいい
のではないか？

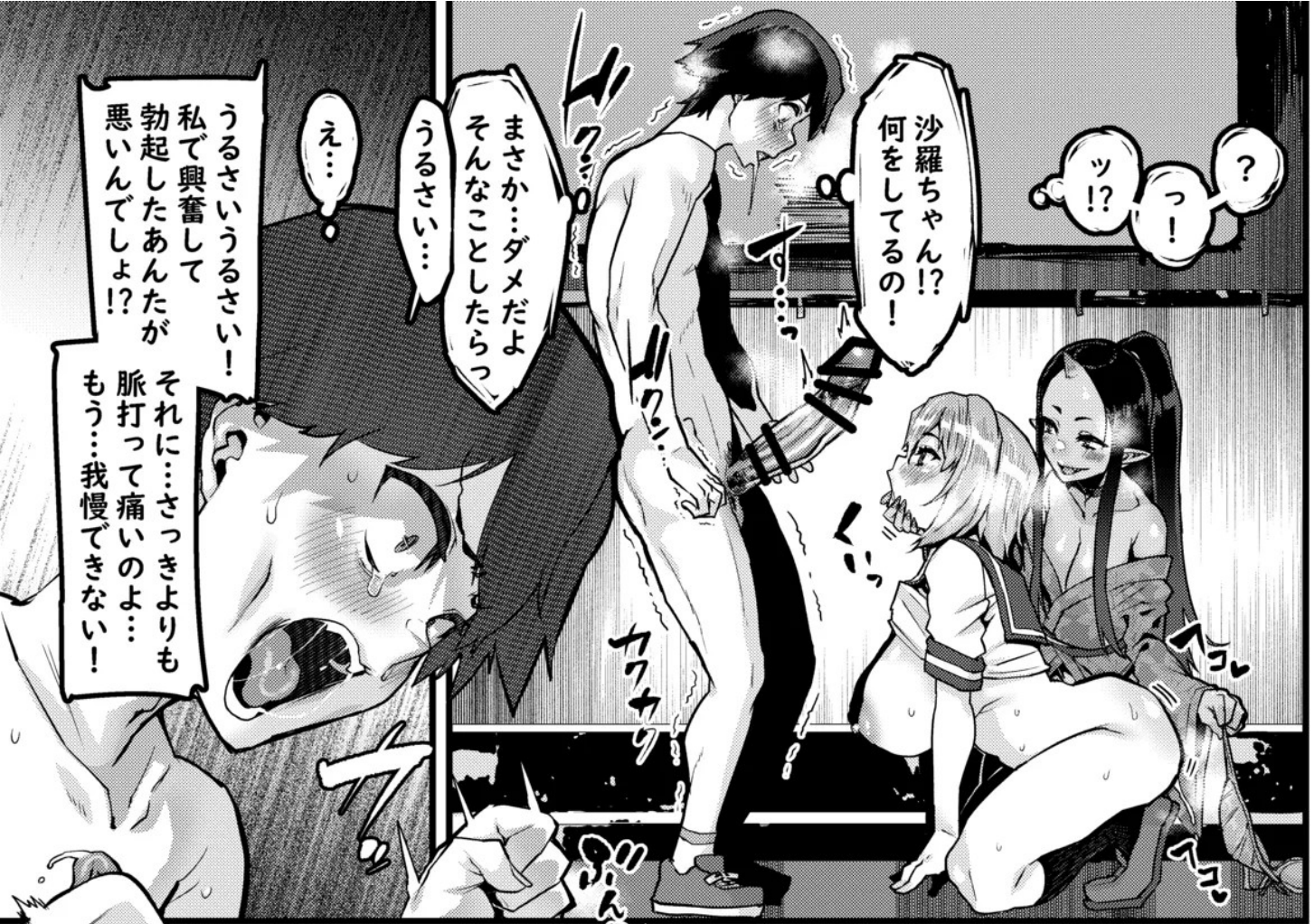
唾液でぬるぬると…
そして口内の熱に
包まれたらどうなるか…
想像してみるがいい

今にもはちきれそうな
それを入れた快感を

女のお前には
味わえない未知の快感
なのだぞ…？

は…は…は…？
け？私…私…？





?!
?!
?

沙羅ちゃん!?
何をしてるの!

まさか…ダメだよ
そんなことしたらっ
うるさい…

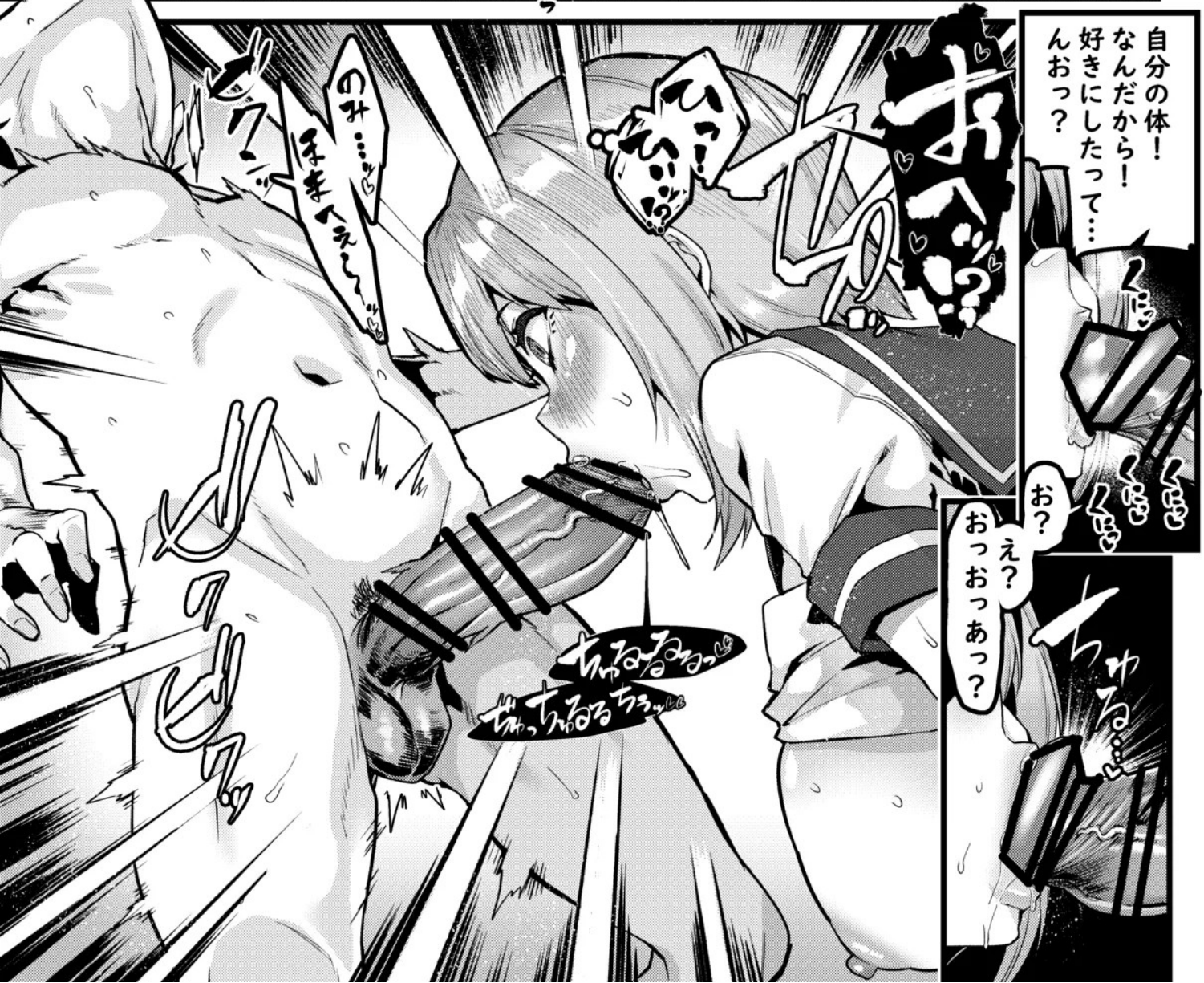
え…

うるさいうるさい!
私で興奮して
勃起したあんたが
悪いんだよ!?

それに…さっきよりも
脈打って痛いよ…
もう…我慢できない!

カフカフ

カフカフ



自分の体!
なんだから!
好きにしたって…
んおっ?

おっ?

え?
おっおっあっ?

ちんちんちんちん
ちんちんちんちん

おっ…おっ…
ちんちんちんちん

おっ…おっ…
ちんちんちんちん

おっ…おっ…
ちんちんちんちん

お?

ちんちんちんちん

あっははっ！
快樂に耐え切れず
突っ込みおった！

沙羅…ちゃん…
なんで…うあっ

身体が…勝手に…

え…？

あはははは
あはははは
あはははは

身体が勝手に…
身体が勝手に…
身体勝手に動いたッ
どうなってんのよ
あなたの身体！
あなたが悪いの！

私のせいじゃないッ
私の…せいじゃない!!

私の…
ぐ…っ!?
え…なんか
ひっひっ出そう！
やだ怖い…これ
どうなるの和央!?
ぬっ抜かな…

うあ…

カクッ

カクッ

カクッ

ザのび
あははは
あははは
あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

あははは

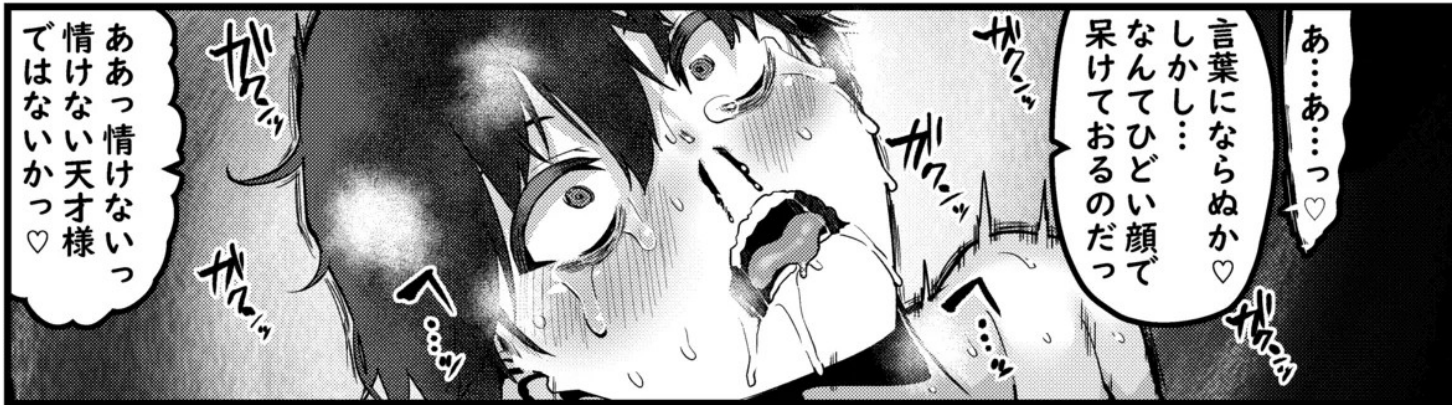
あははは

あははは



自身の口の中は
さぞ気持ち良かった
のだろうな...ははっ

それで初射精は
どうだったかのう
まあ吐き出した
精液の量を見れば
言うことは無いな♡



ああっ情けないっ
情けない天才様
ではないかっ♡

あ...あ...っ♡
言葉にならぬか♡
しかし...
なんてひどい顔で
呆けておるのだっ



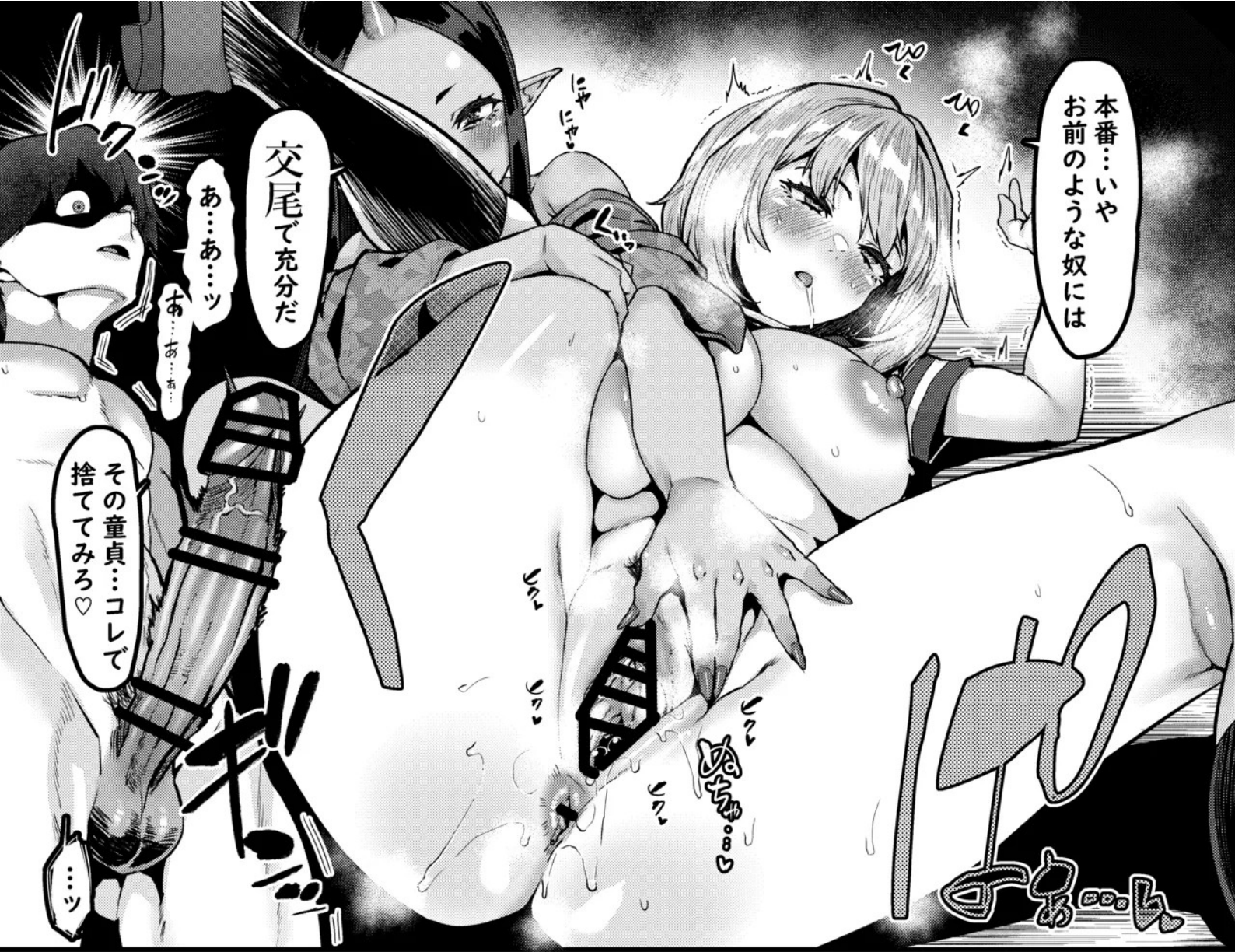
前戯で終わっては
つまらないからのう

ぜん...え...??



...勃起はまだ
静まっておらん

いいぞっいいぞっ!
お前の尊厳を
弄ぶの想像以上に
良い余興だ♡
ふえ...??



本番…いや
お前のような奴には

交尾で充分だ

あ…あ…ッ
あ…あ…ッ

その童貞…コレで
捨ててみる♡

ぬちゅ…♡

おーん



僕は…僕は！
天才だけど努力を
怠らない…

気は強いけど
やっ優しさを
持つてる…

そんな君が…！！
誰かの意思で
無理矢理する
なんて…

………
和央…私は
お前と…

沙羅ちゃん…っ



だっダメだよ！
これ以上は
絶対駄目！

目を覚まして
沙羅ちゃん！



それに…こんな形で
沙羅ちゃんとの
はっ初めてをする
なんて僕はやだよ！！



あっははは！
小娘やりおった！
盛った淫乱め♡

沙羅ちゃん！
沙羅ちゃ…

おんおん
おんおん

あ
あ

あ
あ

あ
あ



なんて下品な交尾
やはり獣と変わらん
先程の凛々しさなぞ
どこへ行ったのやら♪

脳が溶けちゃうっ
頭真っ白になるうッ
マンコっふへっ♡
これきもっちいっ♡

ひっひいっ♡
すっすご…
すごおっ♡
肉が…みっちり
吸い付いて…締まるう♡
あぐっ飲み込まれちゃうう♡





ダメなのに…全然腰止まらないんだけど！うひっ何なのよこれっ♡

こんなの快楽の暴力じゃない…！これを味わったら止められなくなる♡

ああ…すごい私の身体…スベスベで柔らかくて…指が…んっ沈む…♡

もう全てが気持ちいい…♡



この体とセックスするなんて性暴○レ○プと一緒によ…♡

…っ!?何を言ってる…そんなこと…ッ

うるさい！和央あくもっど私を感じる♡

つめ…沙羅ちゃんが入り込んで…♡



……これ盛り猿めがもう充分だろ？終いだ終い

はあくまた出しおったか本当に猿だな貴様は♡

あまり汚すでないぞこの後は妾が色々楽しむのだからな

ああ…そんな…もうどうにも…♡





小娘ッ!

きっ貴様!!



は?

?



ふうっ...妾の妖術を...ぐっ
何故...使えるのだ!?

それに...抜け殻の肉体が
動くなどありえぬっ!



まさか私も自分に身体が
動くとは思わなかったわ

指ッどこに指を...
ひっ入れ...このっ

ただ肉体的...精神的に
深く繋がったおかげで
自分の体を動かせる
ようになったのよね



は?

?



く…まずい…っ
だが術はまだ半端な
出来だ…これなら…
人格が飛び出すのを
阻止は出来る…っ

これで妖魔も
倒せるし
僕らも元に
戻れるね!



油断させて
こんな凄い手が
あったなんて!

流石だよ
沙羅ちゃん!

あんたのお陰よ?
いや〜見ただけで術が
分かつちやう天才の私凄い♡



思い出にやらせてくれて
本当ありがとうね

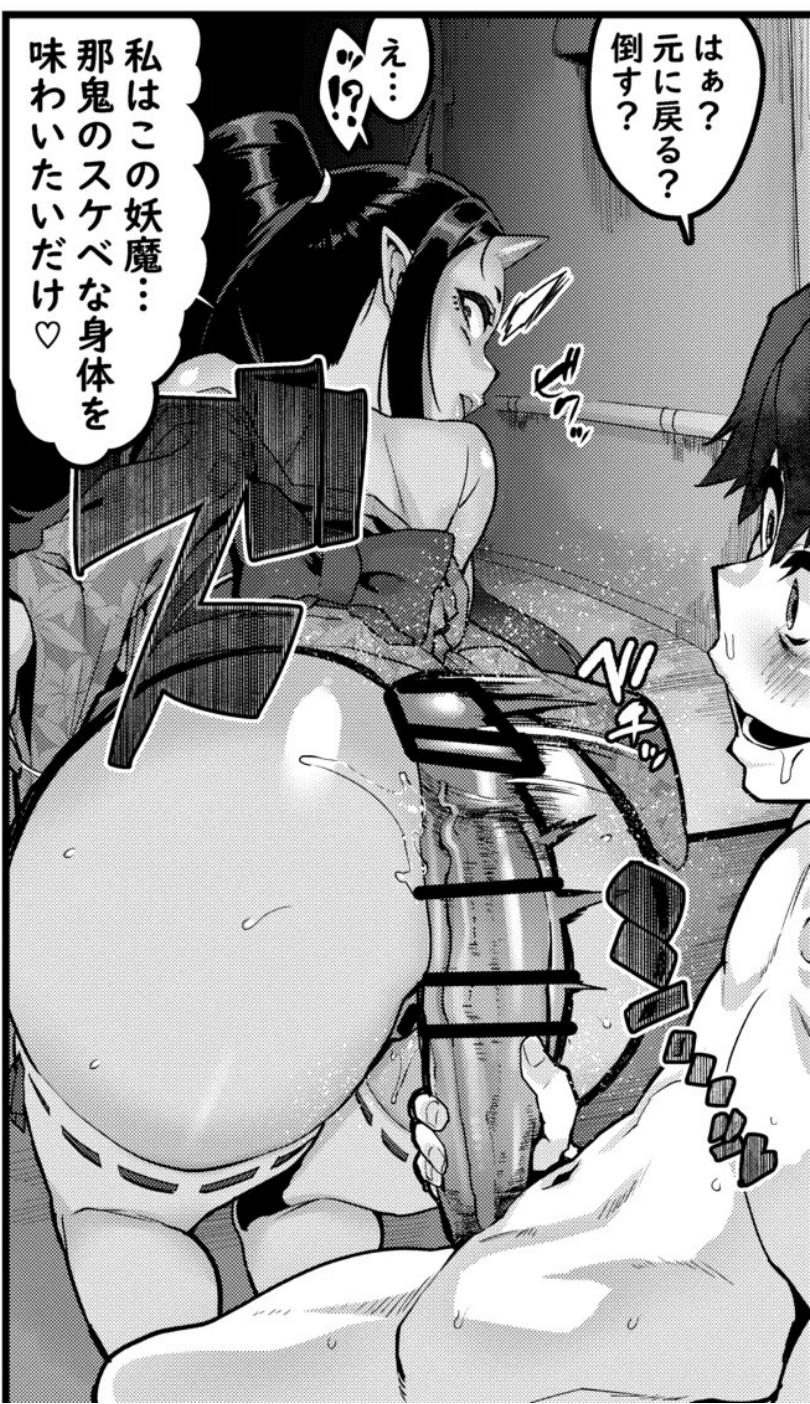
ぐっくう…
おのれえ…ッ



…その為に五百年かけた
妾の術をいとも容易く
真似たというのか…?

デカイ胸と尻を
私の目の前で
揺らしてたらさ…
チンポ突っ込み
たくなるでしょ♡

…え…
沙羅ちゃん?
何言ってる…



私はこの妖魔…
那鬼のスケベな身体を
味わいたいだけ♡

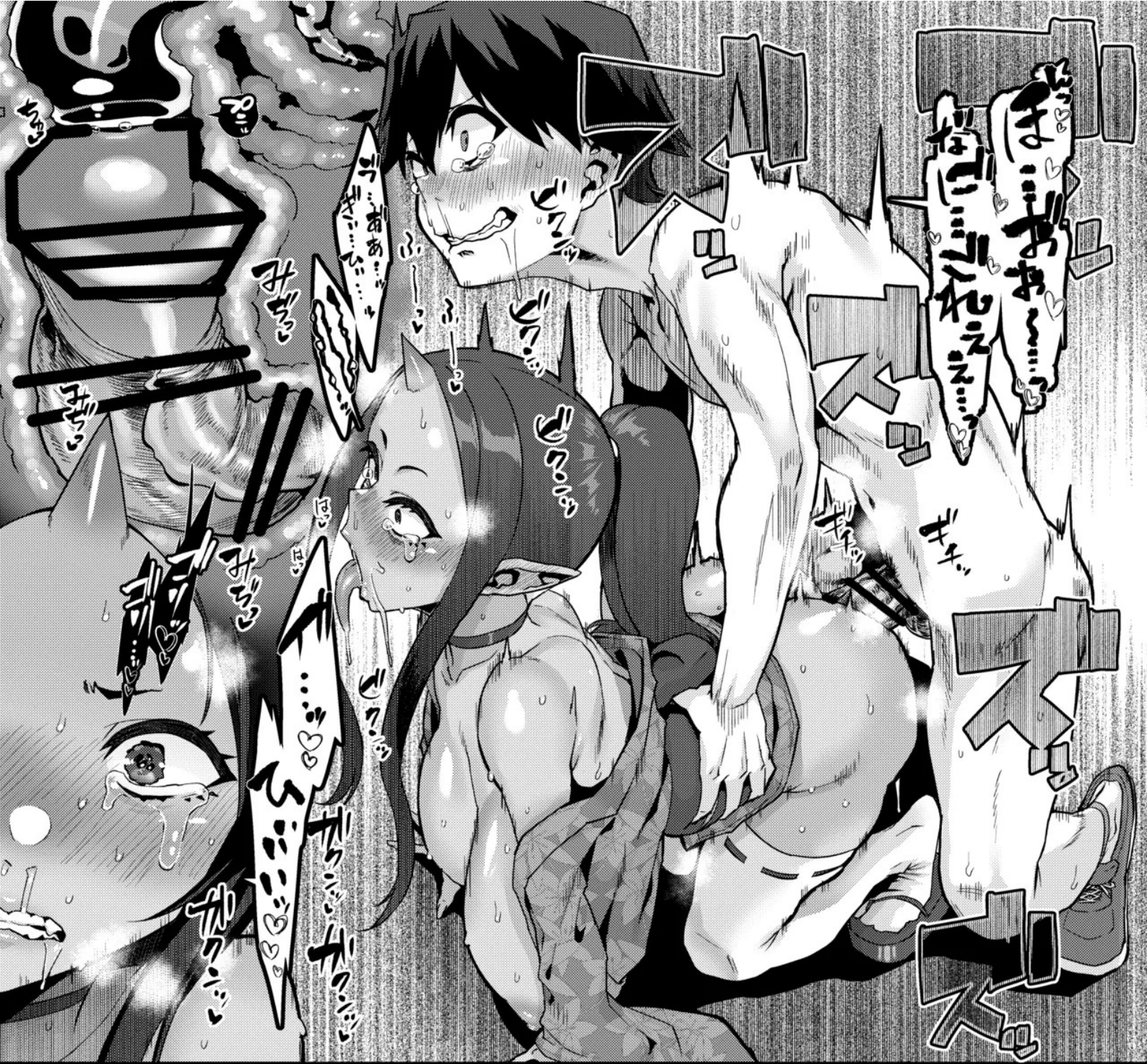
はあ?
元に戻る?
倒す?

え…
!!??



そんな理由で
妾の術を!
妾の身体を…
くそっやめ…っ

ツ!?!
待て待て!
ふざけるな!!



ケツ穴ほじられて
人格脱糞を効果を
高めちゃった?
あははっ♡

ふっふぎけるな!
こんなもの...おっ
うっ動くなっ術にっ
集中...あっあっ!?



流石...んあっ♡
五百年を生きた:
大妖魔様のアナル
良く熟されてる♡



那鬼…あんな
最っ高に気持ちいいよ♡
あなたのケツ穴
入口は凄くキツいの
中はふわふわ♡

なのにしっかりと肉壁が
絡んできて…チンコの
喜ばせ方を分かってる♡



もう止めて！
一方的に
感覚だけ…
狂いそう
だよ！

もう元…
うるさいっ
あなたは大人しく
私に犯されてろっ♡



このだらしのない
胸が…あ…
指に吸い付くっ

私の方が大妖精を
玩具にしちゃったよ？
ねえどんな気持ち？



このっこのっ
色狂いの猿めツ！
自尊心だけでは
なく妾のはじめ…
また…
こみあげてきたッ
これ出るっ出るっ♡

ひいっやめッ
これ以上刺激
したら本当に
人格が出てし
ちゃうラッ♡

んあっ♡
抜けちゃった…

なっ舐めるな…
なめるなあ…んぐっ♡

舐めるなって
そんな情けない恰好で
何を言ってるの？

うっうるさい…ぐっ
妾は…五百年…も
生きた…大…妖魔…っ



こんな…ぎっ
こんなものっ
すぐ♡



さっ沙羅ちゃんっ!!?
何を…して…っ

先だけ中に…

んぐっ!!
んぐっ!!
んぐっ!!





えっちよつと
大妖魔さま!?

あれだけ私を煽って
自分は処女だったの!?
私のために五百年も
処女取っておいてくれて
ありがとう♡♡

妾のが…こんな…
貧弱な餓鬼らに…ッ
こんな…こんな…
認めぬ…認めぬぞ!



おっお…うねる…♡
ヌルヌルで…変則的に
しっ搾り上げられて…♡

こっちも
スゴ…♡

これ…以上は…ッ
頼む…出てしまっッ!
全部っ妾の…人格がッ!!

もうっ耐えられ…
出る出てしまっッ
こんな惨めな姿で…ッ

こんなものも
おれに出来るッ♡



あほ…
出る出るッ♡



そんな事望んで…
あっああ…ぐっっ♡

駄目に
決まってるでしょ？
楽しい余興なんでしょ？
あんたも折角だから
楽しみなさいよ
自分の身体を♡



りよ両責めすご
長舌のケツ舐め
んお…ヤバ…ッ♡

すっごく
奥まで届く♡



肉穴…ふんっ
挿入れ放題！



最っ高っ♡



覚悟はできている
さあ…さっさと
妾を殺すがいい…

…もう…ふう…よい
気は済んだのだろう…
色惚け猿め…もう
抵抗する力もないわ

はあ？
何言ってるの？



…ふう…
気持ち良いけど
大して反応がないと
ちよつと飽きちやかな

…こつ小娘が…ツ
散々に妾を弄んで
その…言い草…!



まだ遊ぶに
決まってる
じゃない♡

…は？



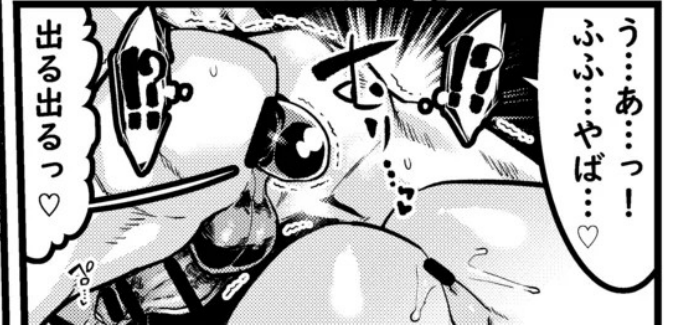
自分を排出しながらの
フェラ…最高っ♡

はあ…はあ…ツ
人格排出…クセに
なったかも…♡



これだけ掘げれば
充分よね…よしっ♡

あ♡
あ♡



う…あ…っ！
ふ…あ…やば…♡

出る出る♡♡



沙羅ちゃん…?

小娘!
どういふつもりで
妾を小僧の身体に
残し…え…?



あ…あ…ああ!
どっどうして
沙羅ちゃんっ!?

うるさいっ!
妾もこんな体の
主導権なぞいらんわ!!



…うまく戻れたわね
うわべトベト…♡

はあ…はあ…
妾が…こんな
貧弱な体に…?



ん?
…ああ

ちよつとさ
女の身体の方で
遊んでみたく
なったからさ♪

うそ…だ…

…

…

…

…

…



じゃあ
はじめようか♡

那鬼…
あんたに感謝してる

こんなに楽しい事
教えてくれて♡

モわ
モわ
モわ♡



カクカク

う…あ…っ

カクカクカク

カクカク

…くそ…

カクカク

カクカク

…くそ…



和央 今日の任務は
これでおしまいよね？

うっうん…
偵察…封印の修復
退魔師の協会からの
依頼は完了したよ

そう…なら
報告はよろしく

まったくこの私に雑用を
やらせるんじゃないわよ

…沙羅…ちゃん…
わ…僕は言われた通り
ちゃんと仕事を
こなしたよね…？

…まあ…
あんたのおかげで
スムーズに依頼は
終わったわ



…そうね

確かに頑張ってたわ
使い魔として
悪くなかった
はい
ご褒美♡

…ッ!?

おっ…おお…
わっ妾のために
穴の用意…ご苦労
だった…小僧…
いや…和央♡

…ッ
…ッ



何たる…気持ちよさ…っ
妾の身体…ああ…!
んお…これぞ至高の肉♡

那鬼…様…
やめ…ずっと
イッてるから…!
あが…この体…
イクの…全然
止まらない…よ…♡

あはは!
あんたとんでもない
色狂いの鬼ね!
いい具合に調教
出来てるみたい♡

さてと…あんたら
身体を交代して!
私もやるから♡

和也…私をしつかり
楽しませないと
また私がヤラなきや
いけなくなるから♡

頼むわよ?

あっ
主様…っ♡

おしまい